

私は、2002年から森林経営隊員として、2005年からは村落開発普及員（シニア隊員）として、二度にわたって活動をさせていただきました。

一度目は、林野庁トトニカパン県事務所に所属し、同僚やNPO・大学の職員・学生などに対してGIS（地理情報システム）の指導を行った他、地域住民に対して炭焼きの技術指導を行いました。森林伐採が問題になっているグアテマラで「なぜ炭焼き？」と思われそうですが、炭は薪よりも高く売れるだけでなく、日本式の炭焼きを導入することで、高品質の炭を生産できる上、その過程で出る煙からは農業資材や医薬品として活用できる木酢液も作れます。また、日本の里山のように、切り株から出た芽を育てる萌芽更新を利用した施業を行うことで森林の保全も可能となり、炭焼きを普及することで経済的にも環境的にも持続可能な循環モデルを作ることが出来るのではないかと考えました。炭焼きは当初の要請にはなかったのですが、同僚の協力もあり、西部を中心として様々な地域で技術指導を行うことが出来ました。残念ながら、任期中に循環モデルを作り上げるには至りませんでした。日本式の炭窯づくりの技術移転は少し出来たかなと思っています。

二度目の派遣では、青年海外協力隊シニア隊員として、同僚の野菜隊員と共にチマルテナンゴ県内の二つの集落で生活向上支援プロジェクトに携わり、農産物の生産性の向上や農民／女性グループの組織化や活動づくりなどを地域住民の皆さんと一緒に取り組みました。この時は、地域住民とより深く関わったことで、人と人とのつながりやコミュニティの大切さを改めて感じさせられました。また、その時に支援していた女性グループが鶏の肥育プロジェクトを始めるにあたって、自ら融資先を探して資金を確保し、プロジェクトを動かし始めた時の衝撃は今でも忘れません。自分達で行動する主体性、そして、そのような主体性を引き出す支援こそ大切なのだと、グアテマラの皆さんに教えてもらいました。

現在は、新潟県長岡市において、地域防災や災害支援の仕事をさせていただいています。そんなグアテマラでの経験や学びが今の活動の中でもしっかりと生きています。

